

平成15年12月教育長定例記者会見資料

| 事 項 | 内 容 | 備 考 |
|-----------------|---|--|
| 土曜日の過ごし方の変化について | <p>土曜日の過ごし方調査の比較</p> <p>1 比較調査名 「平成14・15年度完全学校週5日制に伴う土曜日の過ごし方に関する調査」</p> <p>2 比較対象日 (1) 平成14年度 平成14年10月19日(土)【調査第1週】 平成14年10月26日(土)【調査第2週】 (2) 平成15年度 平成15年10月18日(土)【調査第1週】 平成15年10月25日(土)【調査第2週】</p> <p>3 対象者 小中学生を対象に悉皆調査を行った。 (1) 平成14年度 小学生 約177,000人 中学生 約94,000人 (調査日によって回答数の変動あり。) (2) 平成15年度 小学生 約176,000人 中学生 約91,000人</p> <p>4 調査結果から <質問事項> Q1「あなたはおもにだれと過ごしましたか。」(2つまで選択可) Q2「あなたはおもに何をしてお過ごしましたか。」(2つまで選択可) <小学生> ひとりで家で自分の好きなことやゲーム、テレビを見ていた児童の一部は、友だちと部活動や外で遊んだりするようになったり、家族と出かけたりして様々な活動をするようになったと考えられ学校週5日制の趣旨が定着してきている。 (1) Q1では「友だちと過ごした」が増え、「ひとりで過ごした」児童の割合が減っている。 (2) 特にQ1では「ひとりで過ごした」「2日間ともひとりで過ごした」と回答した児童が減少している。 ア「ひとりで」 ・平成14年度17,146人(4.8%) 平成15年度12,584人(3.7%)【4,652人減(減少率27.1%)】 イ「2日間ともひとりで」 ・平成14年度2,665人(1.5%) 平成15年度1,933人(1.1%)【732人減(減少率27.5%)】 (3) Q2では「部活動や少年団活動に参加した」「家族と出かけた」「外で遊んだ」などの児童の割合が増え、「家で好きなことをして遊んだ」「ゲームやテレビを見て過ごした」などの児童の割合が減っている。 <中学生> 友だちと部活動や外で遊んだりする活動に対して積極的になったと考えられ学校週5日制の趣旨が定着してきている。 (1) Q1では「友だちと過ごした。」が増え、それ以外が減っている。 (2) 特にQ1では「ひとりで過ごした」と回答した生徒が減少している。 ア「ひとりで」 ・平成14年度28,062人(16.0%) 平成15年度22,097人(14.1%)【5,965人減(減少率21.2%)】 (3) Q2では「部活動やスポーツ少年団活動」や「外で遊んだ」「ボランティア活動」などの生徒の割合が増え、「家で好きなことをして遊んだ」「ゲームやテレビを見て過ごした」などの生徒の割合が減っている。 全調査結果については別紙</p> <p>5 参考 「元気いばらきっ子『エンジョイ・サタデー』事業の実施状況」 県が主に土曜日に実施している体験活動に関する事業に参加する子どもたちが増えている。 (1) 事業の趣旨 完全学校5日制の実施に伴い、学校外での各種体験活動の充実が求められているため、県施設の持つ特性を生かしながら主に土曜日に各種事業を展開し子どもたちに心豊かな人間性や自主性・創造性をはぐくむ。 (2) 事業の実施施設 県立青少年教育施設(5か所) 1年間の実施回数 12回程度×5施設=60回程度 県生涯学習センター(4か所) 1年間の実施回数 20回程度×4施設=80回程度 (3) 事業内容 自然体験活動、農業体験、キャンプ、レクリエーション、創作活動、映画会、音楽活動、英会話、星座観察等 (4) 昨年度との比較(10月までの参加者比較) 平成14年度 36,996人(延べ76回) 平成15年度 46,201人(延べ75回)【約1万人の増】</p> | <p>義務教育課指導担当(内線 5226) 生涯学習課学習支援担当(内線 5322)</p> |